

高齢運転者の運転免許返納意識に関する研究

岩手県立大学 フェロー会員 ○元田 良孝
 岩手県立大学 正会員 宇佐美誠史
 東京海上日動 非会員 堀 沙恵

1. はじめに

我が国は高齢化社会に突入し、高齢運転者も増加している。警察庁によれば 2013 年末の 65 歳以上の運転免許保有者は 1,534 万人であり、運転免許保有者数の約 2 割を占めている。しかし高齢になると認知症を発症したり、判断・行動が遅れることから事故の危険性も増えおり、高速道路の逆走行動等も見られている。このため運転能力の低下した高齢運転者は運転免許の返納が求められるが、特に地方部など公共交通機関が発達していない地域では生活に支障が出るためなかなか返納が進まないのが実態である。運転免許返納の条件を調査した研究もあるが、地域差も大きいと思われる¹⁾。本研究では高齢運転者の運転の実態と運転免許返納意識を探り、問題解決の一助とすることを目的としている。

世帯構成は夫婦のみ、下の世代と同居がそれぞれ 42%で、1 人暮らしは 14%であった。

(2) 運転免許返納の意志

運転免許返納の意志があるかどうかを示したのが図 1 である。返納を考えている者は 26%、少し考えているが 19%で、全体の半数以下である。

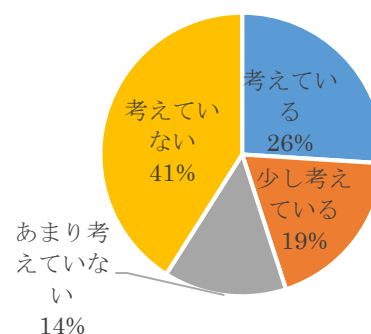


図1 運転免許返納意識 (N=154)

2. 調査の概要

高齢運転者の運転の実態と意識を探るため、盛岡運転免許センターで免許更新に来訪した 70 歳以上の者にアンケート調査を行った。調査は平成 27 年 8 月～9 月の平日 10 日間に行った。質問項目は普段の運転行動、自分の運転の評価、運転免許返納意識、代替移動手段の利用と評価、基本的な属性と自由回答等となっている。回答者は全部で 155 名であり、性別は男性 111 名、女性 44 名であった。自記記入が困難な者には調査員が聞き取りで記入した。

3. 調査結果

(1) 属性

性別は男性 72%、女性 28%であった。運転免許保有者は高齢者では男性が多いためと考えられる。年齢層別では 70 代前半が最も多く 49%で、次いで 70 代後半 26%、80 代前半 22%となっている。

キーワード 高齢運転者、運転免許返納

連絡先 〒020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52

岩手県立大学 TEL 019-694-2700

(3) 苦手な運転行為

苦手な運転行為がある者は 75%で、具体的な項目を図 2 に示すが回答の多い順に夜間の運転、冬季の運転、駐車・バック、雨天時の運転、長時間の運転となっている。視力・体力の低下に伴い、技術や注意力を要する運転に苦手意識があると考えられる。

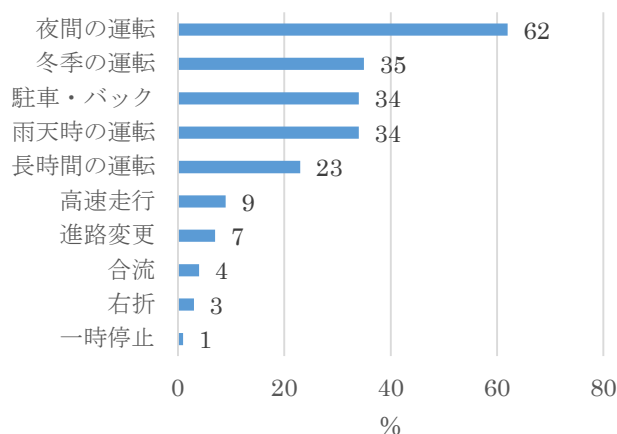


図2 苦手な運転行為 (N=116)

(4) 高齢者講習実技での指摘事項

70歳以上の高齢者は運転免許更新時に教習所で実技を含めた高齢者講習を受ける必要がある。この際指導員からどのような注意を受けたかを図3に示す。これを見ると、最も多いのが一時停止標識での確実な停止、次いで一時停止標識での停止位置、進路変更時の安全確認等となっている。図2に示した運転者自身が認識している苦手な運転行為と比較すると進路変更や一時停止の苦手意識は低く、自己評価と運転実態には乖離が生じていると考えられる。

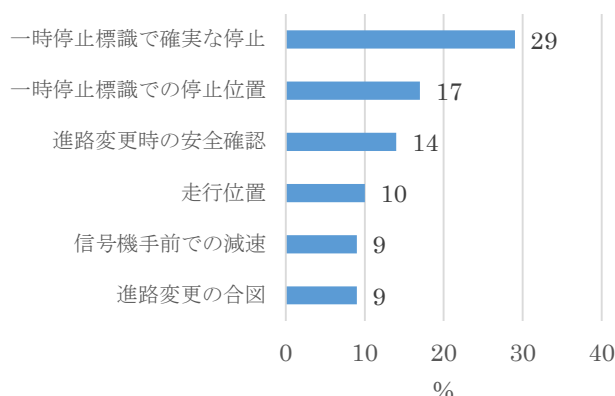


図3 高齢者講習での指摘事項 (N=70)

(5) 運転の自己評価と返納意志

実技講習での運転の自己採点と運転免許返納意志の関係を示したのが図4である。100点満点で自己評価をさせた所、90点以上の自己評価の高い回答者はそれ以下の者より運転免許返納意志が低いことが明らかとなった。運転が上手と認識していると、返納意識は低くなるものと考えられる。ただし先に述べたように自己評価と実態に乖離が生じており、適切な認識とは限らない。

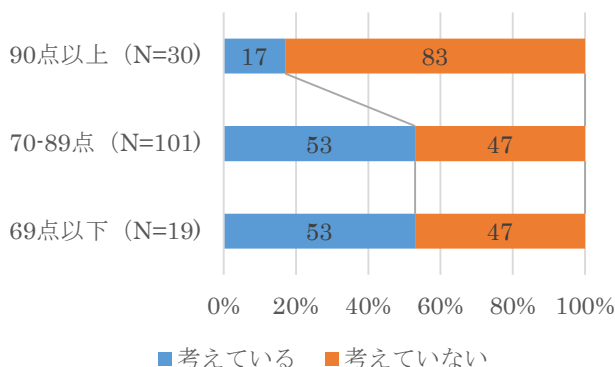


図4 運転の自己評価と返納意志

(6) 運転頻度と返納意志

運転の頻度が少ない者ほど運転免許返納意志が高い(図5)。運転頻度が少ないということは運転の必要性が低い、運転技能が低い、ため運転の頻度を下げているかどちらかと考えられる。いずれにせよ運転頻度が低くても生活は成り立っているものと思われ、運転の必要性は低いと考えられる。

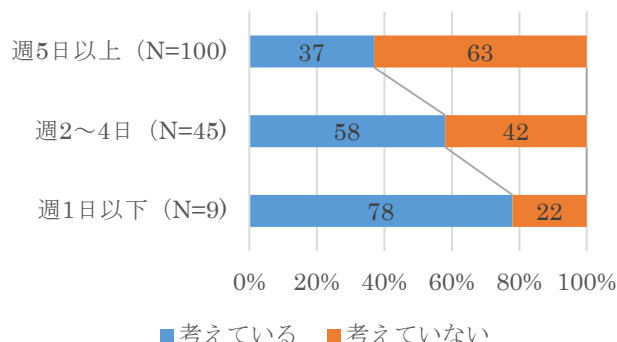


図5 運転頻度と返納意志

4. おわりに

70歳以上の運転免許保有者の運転実態と意識についてアンケート調査を行った結果次のことが明らかとなった。

- ・運転免許返納を考えている者は半数以下である。
- ・自らが認識する苦手な運転行為と、高齢者講習で指摘された問題とに乖離があり、適切な自己評価がされていない可能性が高い。
- ・運転の自己評価が低いと運転免許返納意志が高くなる。このため高齢者講習等で適切な認識をさせることが運転免許返納を進めるために必要である。
- ・運転頻度が低い者は運転免許返納意識が高い。従って周囲の者が協力する等高齢者に運転をしなくてもよい環境を整えることが必要である。

アンケートに協力していただいた回答者の方々、及び調査の便宜を図っていただいた岩手県警の皆様方に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 橋本成仁、山本和生：居住地特性から見る運転免許返納者の特性把握、公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 vol.46 No.3、2011